

睡眠時無呼吸症候群の歯科的アプローチ ～新型オーラルアプライアンスについて～

須磨区・とも歯科医院 坂口 智計（歯科医師）

睡眠時無呼吸症候群 OSAS の治療では CPAP を用いる治療がメインですが、CPAP に馴染めない患者様や適応基準に満たない患者様が当医院に時折検査データを持参され歯科的治療である OA 作成を希望され来院されます。さて、この OA の基本的な仕組みは、就寝中に下顎が沈下し舌が咽頭方向に落ち込まないようにすることで気道を確保し、就寝中のスムーズな呼吸を確保し OSAS の症状を改善するというものです。

従来より、オーソドックスな OA は下顎を前方位に誘導した状態で上下顎を固定したマウスピース装置で、顎の自由な動きを著しく規制するもので慣れるまで相当苦勞する場合もあり、辛くてつけられない患者様も多数おられるようです。何種類かその不快症状を改善するような装置部品も販売されていますが、結構高額で保険診療では割に合わなかったり、破損しやすかったりでいまいちでした、かれこれ OA が保険導入され 10 年以上がたちさてどうしたものかとずーっと考えていました。この 10 年、OA の進化は停滞しておりましたが、一方歯科矯正の分野はこの 10 年で劇的に変化しています

高速かつ安価なコンピューターが簡単に手に入るようになり、それに伴い治療を 3D で予測分析ができるようになりました。CAD/CAM で正確に 1step ずつ予測したマウスピースをコンピューター上でほぼ自動でデザインし、3D プリンターで最初から 60step 分一気に出力作成し、それを毎週交換していく事により、今までのワイヤーなどによる矯正治療とは全く異なる概念の矯正治療が徐々に従前の歯科矯正治療にとってかわる勢いがあります。

進化している矯正装置を応用することにより違和感が少ないようで、装着された患者様からは好評を得ております。しかし、医科の先生方と特段提携しているわけではないので、症例数がまだ 2 つ程度と少ないのもっと沢山の症例を通じて、いずれ従来型との比較検証して報告が出来たら良いな考えています。